

せいしんがい報

2015年10月1日 第106号

注目記事

◆1ページ◆

スーパービジョン研修会

救護施設やしおみ荘
〒972-0161 福島県いわき市遠野町上遠野字堀切27
☎(0246) 89-3333 ㊟(0246) 89-3334

グループホーム レジデンスなごそ
メゾン・ド・あたご、メゾン・ド・ほりきり、コーポおかおな

指定特定相談事業・せんとらる
〒971-8151 福島県いわき市小名浜岡小名4-3-1
☎(0246) 38-3520 ㊟(0246) 38-3521

障がい者支援施設ふじみの園・ショートステイほっと
〒972-0252 福島県いわき市遠野町上根本字白坂384-1
☎(0246) 89-3400 ㊟(0246) 89-3454

虹のかけはし
〒971-8101 福島県いわき市小名浜丹波沼61-1
☎(0246) 73-0111 ㊟(0246) 73-0112

ワークセンターしおさい
〒971-8161 福島県いわき市小名浜諏訪町1-10
☎(0246) 73-2077 ㊟(0246) 73-2078

手打ちうどん 天真庵
〒974-8212 福島県いわき市東田町2-11-7
☎(0246) 77-2033 ㊟(0246) 77-2033

ヘルパーステーションあくていぶ
〒979-0145 福島県いわき市勿来町四沢清水17-1
☎(0246) 65-5700 ㊟(0246) 65-5700

障害児通所支援ちゃーむ・日中一時支援ちゃーむ
〒971-8166 福島県いわき市小名浜愛宕上13-23
☎(0246) 73-2033 ㊟(0246) 73-2034

障害児通所支援第2ちゃーむ
〒973-8409 福島県いわき市内郷御台境町鶴巻45-2
☎(0246) 84-6882 ㊟(0246) 84-6883

障害児通所支援みによん
〒974-8261 福島県いわき市植田町林内11-1
☎(0246) 85-5720 ㊟(0246) 85-5721

スーパービジョン研修会

講師：福山和女先生

8月24日(月) ルーテル学院大学教授 福山和女先生をお招きし、当法人の地域交流センターにおいて、当法人研修委員会主催のスーパービジョン研修会を開催しました。レジデンシャルソーシャルワークからコミュニティソーシャルワークへと大幅にパラダイムが変化している中、管理者、また中堅職員が果たすべき役割は何か。スーパーバイザーの役割である教育的側面・管理的側面・支持的側面をどの様に考えていくのか、「多様化するソーシャルワークのパラダイム再構築」と題し、副主任以上の役職員27名が参加し、ご教示いただきました。



以下に研修内容をまとめたものをご紹介します。

レジデンシャルソーシャルワークからコミュニティソーシャルワークに変わってもスーパービジョンそのものには変わりはない。しかし、日本ではあまりスーパービジョンという言葉は使用されていないのが現状である。現在日本の職場で起きている職員育成の中での混乱は、世界的にも起きていることである。新人が聞いて来たから答えるのか、新人が聞いて来たならその機会をどう生かすのか、何の意図でスーパービジョンを行っているのか、ソーシャルワークを行う上でのパラダイムが変わってきている。

このパラダイムの変化を理解する為にはまず、コミュニティソーシャルワークについて理解を深めなければならない。2000年の国際ソーシャルワーカー連盟総会で採択された

ソーシャルワークの旧定義においては、個人・家族に関する問題を解決していくことに焦点が当てられ、原因結果に基づき色々と検討するというものであった。しかし、グローバル化する社会において、個人の問題解決を図ることだけでは限界が出てきた。社会には人種や民族等様々な問題があり、その中で生きている人に援助をするとなれば、彼らの持っている生活課題を達成するために援助をしようという視点が変わり、2014年に新しくソーシャルワークのグローバル定義が採択された。個人を援助することで地域との連携を図り、社会活動・社会資源の開発をしながらソーシャルネットワークを展開していくこと、これをコミュニティソーシャルワークと呼ぶ。これまでの取り組みに基づき、プラス・足し算的な思考でアプローチしていくものであり、援助というのは解決するのではなく補

うことだと考えなければならない。

この定義が変わったことが現場にも影響している。新人職員が問題を抱えた時に近づき、業務が滞ることがない様にスーパービジョンで促すという今までの考え方ではいけない。「自分が仕事をしている」のではなく、「施設がその様な支援を行っており自分がその事に加わっている」、その結果が地域に反映していると認識してもらわなければならない。利用者一人ひとりの支援を実践し結果的に地域貢献ができることを自覚し、新人職員もコミュニティソーシャルワーカーに育ってもらわなければならないのである。

その為には、新人職員や部下から問題がなければ話を聞いてもらえないと思わせてはいけない。相談を持ち掛けられた時には、「それは困ったね」とは言うてはいけない。まずは「よく言ってくれたね」と支持し、「あなたはその問題に対してどのような事をしたの

か教えて?」と尋ね、その人がやってきた事を認めてあげなければならない。これが、一人の人の存在を認めるということである。やってきた事を認めてその中で足せるものはないか、を考えていくのが上司の役割なのである。課題は解決するものではなく、達成するものである。スーパービジョンというのはスタッフの活用術である。スーパービジョンを受けることで責任を持って業務を遂行するということを実感してもらい、施設で働くとはどういうことか、職員としての存在というのはどういうことかを学ばせなければならないのである。

これは世界的な動きであり、ソーシャルワークのパラダイムが変わってきたのである。支援の仕方、スーパービジョンの仕方まで変わってきたということ、そうしなければ私たちの支援の拡大ができないということを実感しなければならないのである。

研修はグループでの話し合いやロールプレイを交えて、福山先生とディスカッションをしながら進められました。それぞれの現場においての職員の育成について悩みや問題が上がり、福山先生よりご指導を頂きました。利用者に対してはストレングスを使用しているのに、なぜ新人職員や部下には使わないのか。ものすごくできる人という期待が高いのではないのか。批判をするより足し算的な思考で認めてあげること。認めるということは、良くできている事と限界を言わなければならないのでとてもエネルギーがいるものである。なので、新人職員や部下にも考えてもらいながら課題の達成に取り組めばよい、とのスーパービジョンを頂きました。

私たちの職場ではスーパービジョン体制は整っているものの、管理者側のスーパービジョンの姿勢が統一

されていなかったのではと各々が反省しました。まずは相手を認めること、そして足し算的な考え方で課題を達成していけるようバックアップしていくこと、ソーシャルワークの原点を振り返り、そしてパラダイムの変化を理解し、管理者、上司、先輩としての役割を果たしたいと強く感じた研修でありました。

福山先生のプロフィール

ルーテル学院大学教授。アメリカ・カトリック大学大学院博士課程修了。社会福祉学博士。臨床心理士。スーパービジョン・コンサルテーション研修では、全国各地で保険・医療・福祉の専門家たちの指導にあたっている。

法人設立記念行事ダイクルーズ

8月8日(土)法人設立記念行事として、毎年恒例の貸切遊覧船に乗りながらのクルージングを行いました。出港前に、当法人の永年勤続表彰式を行ない、3名の方が表彰されました。

出港後、船の中では、松崎有一理事長から福祉の動向から多岐に渡るお話を頂きました。また来賓として、いわき市議会議員蛭田克様をお招きし、ご祝辞を頂戴しました。

乾杯の後に会食となり、豪華な食事と船内からみる景色を楽しみ、デッキの上では、カモメがお菓子を目当てに集まる様子を見て楽しんでいました。連日の猛暑で私たちはバテてしまっていたのですが、カモメは涼

しそうに海の上を羽ばたいており、うらやましく感じました。中には、お菓子をカモメの方に恐る恐る手を伸ばしていた方も、すぐにお菓子がなくなってしまう程夢中になっていました。

天気にも恵まれ、気持ちのいい潮風に当たりながら、日頃の疲れを癒せたダイクルーズでした。

◆永年勤続者(敬称略)

小 宅 幸 恵
木 村 大
田 中 尚 子



夏まつり やしおみ荘



やしおみ荘の一大イベント、利用者が待ちに待った夏まつりが8月2日(日)に行なわれました。

朝から晴天に恵まれましたが、開始一時間前に巨大な雹が降る悪天候、開催も危ぶまれていましたが、利用者の思いが届いたかのように天候は回復し、開始予定時刻から30分程遅れましたが無事開催する事が出来ました。

紺野施設長の開会宣言から始まり、最初の催し物は元気いっぱいな四時若鮎太鼓の演奏です。力強い太鼓の音で、お祭りの熱気を盛り上げて頂きました。

次に登場したのは、いわき市で活動するダンスチーム・七浜Breakersのダンスでした。ステージ上でのダンスに利用者もノリノリに。瑞希会の民謡舞踏を見ながら伝統芸能に触れる事も出来ました。

次に行われたのは、いわき市の伝統芸能・じゃんがらです。上遠野青年会の皆さんの息の合った太鼓・鉦・笛の音色に聞きほれていました。

櫓の上から金山おはやし会の音頭が始まり、盆踊りが始まります。利用者・職員・地域の皆さんがお囃子に合わせて思い思いに踊りました。

そして、トリを務めるのは志摩幸子さんのショーです。志摩さんが歌い始めると、ステージ前には利用者が大集合。力強い志摩さんの歌声に皆さん聞きほれていました。

食事はお祭りの定番、焼きそばや揚げたこ焼き、ポップコーン等をみなさん美味しそうに食べていました。

就床時間に寝るのが惜しくなるほどの活気に満ち溢れた夏まつりでした。

一泊旅行 ～上越方面への旅～ やしおみ荘

9月10日(木)～9月11日(金)の2日間、総勢22名で新潟せんべい王国やマリニピア日本海へ旅行に出掛けました。爆弾低気圧により、新潟に近づくにつれ雨の影響で川が増水し、畑も浸水して大きな被害を受けていることに利用者も驚いていましたが、バスから降りると雨は弱まり、見学や移動に大きな影響はありませんでした。せんべい王国に着くと、新潟を代表するお菓子「ばかうけ」に味を付ける体験を行ないました。味はカレーやチーズなど約10種類から選び自分好みの味を付けられるとあって、何の味がおいしいか悩みながら各々味をつけ、移動のバスの中でさっそく食され満足した様子でした。マリニピア日本海ではイルカショーをはじめ多くの魚を鑑賞し、日本海に生息している魚も学ぶことができました。宿泊ホテルは月並温泉で数多くお風呂があるという事でしたが、いわき市よりも肌寒く移動に疲れたのか、一つのお風呂に入

ると疲れもとれ十分満足したようでした。食事に舌鼓を打ち、カラオケでは照れて遠慮していた利用者も一度マイクを握ると、自分の得意な曲を披露していました。2日目は、越後一の宮弥彦神社を参拝しました。天候の影響もあり神社に霧がかかり、なんとも儼かな雰囲気印象的でした。帰荘後は大変満足したようで、他利用者や職員にお土産話を話し、「来年もまた旅行に行きたい。」と笑顔で話されていました。



一泊旅行 ふじみの園



今年も2班に分かれて一泊旅行に出掛けて来ました。1班目は6月30日(火)～7月1日(水)に利用者24名、職員6名で千葉方面へ。一日目のポティロンの森ではピザ作りを体験。菓子製造作業班で日々材料や調理器具に慣れ親しんでいる方は、「私にまかせて」と手馴れた手付きで生地を捏ね、またある方は生地を大きく伸ばし過ぎて穴があいてしまったりと、笑いあいの楽しい体験となりました。二日目は、小さなローカル線で電車ファンにも人気の銚子電鉄に乗りました。一続きの長座席に皆

で座り、電車の揺れに身を任せ景色を眺めました。帰ってからの数日はピザ作りの話題で持ちきりでした。2班目は7月15日(水)～7月16日(木)に利用者11名と職員5名で茨城方面へ。一日目の日立かみね動物園では、ヤギへの餌やり体験をしました。怖がらずに触れ合っている方が多く、笑顔を見せ楽しんでいました。二日目は大洗マリンタワーの展望フロアから町の景色を一望しました。めんたいパークでは明太子おにぎりを食べ、工場見学もしたりと充実した旅行となりました。

日帰り旅行 (A) やしおみ荘

9月25日(金)日帰り旅行A班は、いわき市にある湯本温泉郷の「ホテル美里」で食事会を行ないました。当日は、小雨のばらつく天気で心配もありましたが、迎いのバスが到着すると皆さん笑顔で乗り込まれました。バスの中では、景色を眺める方から、もうすぐ始まる食事会について話される方等、思い思いに楽しい時間を過ごされていました。ホテルに着くと九官鳥がお出迎え。利用者の「こんにちは」の声に言葉を返す九官鳥に皆さんとても驚かされていました。食事会ではお膳に沢山の料理が並べられており、まずは何から頂こうかとしばらく眺めてから食事をする方もいました。食事が進む中、待ちに待ったカラオケの時間です。得意な歌を披露しようと、曲に合わせて歌う方からアカペラで歌う方までと、

大いに盛り上がりました。帰りのバスの中では、盛り上がった分疲れてしまったようで、荘に着くまでウトウトと眠っている方が多くみられました。帰荘後は、「良かったよ」「また、行きたいね」と早速、次の外出を楽しみにされていました。



日帰り旅行 (B) やしおみ荘

9月30日(水)秋晴れの中、アクアマリン見学と「まるかつ」にての食事を利用者20名と職員で行って来ました。

アクアマリンに着くとすぐに、カワウソが出迎えてくれました。寝ている姿に、大きな声で「起きて」と声を掛ける方もいましたが、残念ながら動く姿を見る事はできませんでした。次に鑑賞したイワシの大群には「イワシの身体が光ってきれい」と喜ばれていました。終始、驚きと発見の連続で、楽しい時間となりました。最後は、お土産を買いアクアマリンを後にしました。その後、会食の為まるかつへ。まるかつでは、新鮮な海鮮が盛りだ

くさんの料理を堪能し、親切なスタッフの方と会話を楽しみながらコーヒーを味わい、笑顔での記念写真を撮り帰って来ました。とても満足した日帰り旅行に、さっそく来年を楽しみにする声も聞かれました。



福祉体験学習 ふじみの園

9月10日（木）福祉体験学習の為、磐崎中学校の学生男女8名が来園されました。ADL支援の様子を見学すると共に実際に支援にも携わっていただき、職員の話真剣に聞きながらメモを取る学生もいました。日中活動のミュージックケアでは、利用者と手を取り合いながら音楽に合わせて体を動かしたり、大きな声で歌を唄いました。最後には2つの紙芝居「ばけくらべ」「あてっこあてっこ」を披露していただき、利用者も紙芝居の世界に入り込んでいました。束の間の時間でしたが、いつも以上に利用者の笑い声が響き渡り、素晴らしい思い出の一日となりました。



福祉体験学習後にアンケートをとらせていただきました。

いくつかの回答を掲載させていただきます。

①福祉の仕事についてどのようなイメージがありますか

- ・大変だというイメージ
- ・人助け、人を幸せにする
- ・辛そう
- ・人のお世話をするというイメージ

②楽しかったことは何ですか

- ・入所している人が自分たちが来て笑ってくれたこと
- ・紙芝居をして皆さんが喜んでくれたこと
- ・ミュージックケアで利用者の皆さんと交流することができてよかった

③ふじみの園に来て新しく気づいたことがあれば教えてください

- ・障害者の人が積極的に話し掛けてくれたこと
- ・施設の方はもっと暗かったりしゃべれなかったりとしたイメージでしたが、そういう人たちだけではなくとても明るくて楽しい人達もいて、とても笑顔が見れました
- ・障害者だからといって何もできないわけではなく、ちゃんと会話もできて自分で何かをすることもできるということ
- ・障害者の人も普通の人と同じように生活しているということ
- ・職員の方が一人ひとりに合った対応をしていること

施設で生活をしている方たちが、自分たちと同じようにできることは自分でやり、そして笑いながら暮らしているということを感じとってくれたことがうかがえ、貴重な体験となったようでした。

* 秋の写生会 * ワークセンターしおさい

9月29日(火)小名浜の富ヶ浦公園で秋の写生会を開催しました。

いつもは作業室内で作成するうどんやラーメンのラベルのイラスト描きを、気分のリフレッシュや新たな発想の開花も兼ねて屋外で行おうと計画しました。当日はとても気持ちの良い秋晴れで風も心地よく、絶好の写生会日和でした。午前中の作業を終えると、それぞれ色鉛筆にラベル、ちょっとしたおやつと飲み物を持っていざ出発。公園に着くと太陽がまぶしく少し汗ばむくらいの陽気でしたが、ベンチに腰掛け公園から眺める風景を描いたり、おやつや飲み物で休憩をとったりと皆さんとても

楽しそうに過ごしていました。いつもと違う環境の中での作業も、また一味違って良い経験になったようでした。



* 社会科見学 * 虹のかけはし

9月28日(月)に段ボール班、9月30日(水)にパン作業班がそれぞれ社会科見学に行きました。段ボール班はしょうばん福祉作業所にて自動車部品の組み立て作業の説明を受けたり、作業所の利用者が実際の作業に取り組んでいる様子を見学したりしました。パン作業班は小名浜にあるパン屋を訪問し、職人によるパン作りの様子やパンの種類、設備等を見学しました。ダンボール班、

パン作業班共にとても充実した社会科見学となりました。



SST (ソーシャル・スキル・トレーニング) 研修会に参加して ふじみの園

ふじみの園 副主任生活支援員 武田 智哉

7月11日(土)～12日(日)に盛岡市の岩手県産業会館で行われましたSST研修会に参加しました。まずはSST(ソーシャル・スキル・トレーニング)について簡単に説明させていただきます。挨拶の「おはよう」と返す行動の練習をします。普段何気なく「挨拶」をしています、「おはよう」の言葉を「受け止め→処理→伝える→目を見る→笑う→挨拶(「おはよう」)を返す→お辞儀をする、といったことを細分化し練習することです。利用者の方々は「できないのではない。トレーニングの機会を失ってきた為、身に着いていない。」という講師の土屋氏が仰っていました。私たちは普段何気なく当たり前に行っていますが、今までこの細分化を繰り返

返し行ってきたのです。行動を細分化し繰り返し行うこと、不適切な行動に対し注意するのではなく、その行動の中でも良い面を探して支持し、取るべき行動を示すことなど、各場面・状況において一つ一つを繰り返し行う事がいかに大切であるかを学ぶことができました。今までの自分の支援を振り返ると、意識せずにSSTを行っていた部分もあると感じましたが、研修に参加できたことで知識を習得し確実なものとなりました。また、講義の中で出てきた「やってみせ、言って聞かせ、させてみせ、褒めてやらねば、人は動かじ」は山本五十六の残した言葉ですが、「まさにその通り」と思いました。

今後は学んだことを実践し、利用者の生活の幅を広げられるよう支援していきたいと思ひます。

認知症高齢者対応研修に参加して ふじみの園

ふじみの園 生活支援員 岡ノ谷紗彩

7月14日(火)郡山ユラックス熱海で行われた認知症高齢者研修に参加させて頂きました。認知症は進行疾患であり確実に進行するものである為、「治す」より「遅らせる」事を中心に考えないといけない事が分かりました。活動中など、すぐに手助けをするのではなく、観察する視点を細めて出来ないところに着目することが

大切です。そのことでポイントを絞って効果的に支援を行うことができ、その人の残存能力維持にも繋がっていきます。また、相手に声を掛ける時には、利用者個々に合った言葉やジェスチャーを用いて説明する事が大事であるとのことです。私自身も利用者のペースに合わせた支援をしていけるよう、日々自己研鑽し業務にあたっていきたいと思ひます。

楽しかった親子鑑賞会

ちゃーむ、第2ちゃーむ、みによん合同

8月21日(金)に、3施設合同による「郡山ポップサーカス親子鑑賞会」に出かけました。初めての大型バスでの移動と言う事で不安もありましたが、保護者の方の協力も頂き、事故も無く、無事に終える事が出来、職員一同ほっとしています。

バスの中では「ピングゲーム」や「カラオケ」で盛り上がり、楽しく過ごしていました。

到着すると、テントの大きさに少し圧倒された様子でしたが、ピエロの楽しいパフォーマンスでリラックスでき、サーカスが始めると、空中ブランコやロープでのバランスに「すごいねー」「かっこいい」「がんばれー」と、大きな声で声援を送っていました。かわいい犬達の演技にも癒されて、夏休み最後の楽しい思い出となりました。



寄付を頂いた方

佐藤理容所 様

編集後記

この夏はどのように過ごされましたでしょうか?何かもの足りない、何か新しく始めた、とお考えの方も多いのでは…。

さあ!秋は活動の季節です。そして食欲の秋です!皆様の秋が色々な意味で実り多きものとなります様に…。